

(全般モニター使用) 議長より登壇の許可をいただきました、一般質問を開始いたします。もう写りましたね。

さっき食事に行くときに下に降りてちょっと歩いたら、すごいポルシェが来てたんです。ポルテじゃないですよ、ポルシェ。ポルシェが通ってたんですね。そしたら、そのポルシェ、県外ナンバーでしたけども、図書館の場所を教えてくれ、って市役所の中に来てたんですね。やっぱりそういうふうに、すごいやっぱり来られているんですね。ほんのさっきでした。ですから今、行ってらっしゃるんじゃないでしょうか。

今から一般質問を開始しますけども、これ——翻訳、こうやって議会はこういうパソコンとかで翻訳で見れるんで。聴覚に障がいをお持ちの方とかですね、これでテレビとかこうやって議会のほうも十分内容がわかるということで、本当にすごいことだと思います。自分がですね、一般質問の通告締切後にこれ見たので、例えば学校の授業とかですね、聴覚に障がいの子もたちが、例えば学校の先生がここにマイクを付けて、こうやって出たらですね、子どもたちもそういうふうにできるんじゃないかと。これはすみません、質問後でした。締め切り後でしたので、こういう形で出させていただきます。これも武雄市役所、武雄市議会が大きく変わってくる1つだと思っています。あ、これすみません。

今回の私の質問は、4項目。1項目めは、観光について。これは主に図書館について話しますけども、3月議会覚えてらっしゃいますかね。3月議会の冒頭に、「佐賀のたる蛇、薩摩の芋づる」って言いましたよね。薩摩はグワーっとみんなで行こう、という形で、発展しようっていう形にしますけども、佐賀は、例えば元気があるのが外に出ようとすると、よってたかって足を引っ張ると……。そういうふうな風潮があるというのを、昨日の質問でちょっと感じました。

例えばですね、きのう出た中で、千円図書館。何なんだそれはという、初めて聞きましたし、例えば、あそこの館内には100円の自販機もあるんですね。それで例えば、ちょっと見たんですけど、子どもに脱脂粉乳じゃない、何ていうんですかね、今、「ミルク」と言う者あり) そういうの飲ませたいから水くださいと言えどももらえるんですね。そうやって、例えばスタバでもちょっとお冷やくださいって言えどももらえるんですね。そういうのがあるのに、あえて千円図書館と言われるのが何かですね、私の中ではですね、沸々とくるものがありました。例えばですよ……。市役所の中にスタバができれば、千円市役所なのか……。白岩運動場にスタバができれば、千円白岩運動場なのか……。ちょっと私もう、わかりませんね。

そういうふうなさっき言いました、水の問題があつて水がここ飲むところが少ないなと思ったら、例えば、よく行ってもらえる方ならですよ、例えば議員とか、いろんな関係者ならば例えば、水があつたほうがいいよ、とか担当とかですよ、職員さんにこう言って、わざわざここですよ、言う必要があるのかなっていうふうに本当に思います。

〔市長「同感」〕

こういうことは善意、善意っていう言葉は質問で使われましたけれども、ちょっと違うなということがありました。確かにですね、市長が言われるように……（発言する者あり）はい？（「議運で言えばいい」と呼ぶ者あり）議運で？よかですか、続けます。市長が言われるようにですね、施設は使われてなんぼなんですね、やっぱり。例えば、一部の人のマニアとか何かのための、例えばそういうふうに施設とか建物みたいなのを、維持費莫大、経費たくさん。例えばですね、それもいろいろな手当したらいいですよ。こっから収入がある、あそこから収入がある、とかそういうふうな図書館だといいいんですけど、図書館っていうか、施設ならいいですけども、やっぱり使われてなんぼなんですね。実際、さっきポルシェの例を出しました。実際、こんなポルシェかっこよかったです。そういうふうに来られてました。市内、県外、そして市外からも多くの人たちが利用されている。ある意味ですね、今、武雄で1番集客力を持った施設だと思います。そういう中にですね、観光という観点を触れて、1番目の質問という形にやっていきたいと思います。

そして、次に教育、2番目に教育、3番目に企業誘致、4番目に周辺部という形でやっていきたいと思います。

少子高齢化社会、きのうですね、23番黒岩議員さんの質問の中で、あの周辺部、高齢化社会、高齢化の世帯が多いです。町の中にも多いです。そういう中にですね、送りつけ商法。これですね、実はですね、私かかってきました。さっき、この前言ったように、家にちょうどいたときに、父と母も80以上、1人は90以上ですから、高齢です。そこにたまたま夕方か、7時から8時頃いまして、電話かかってきたので僕が取ったんです。通常なら父か母かどっちかが取るんですけども、僕が取りました。僕が取って、向こうがですね、ちょうど5月だったんで、僕が取って、「もしもし」といったら、「何とかサプリメントですけども、3月何日にそちらから注文が入ってる」と。「今、用意ができましたから送ります。」と、いうふうな電話だったんですよ。「えーそうなんですか、誰が頼んだの」と言ったら、うちの母の名前を言って、「〇〇さんが頼みました、今そのきた情報を見えています。」と、それで「用意が出来たので連絡しています」と。「いやそんなはずはない、うちの母はそういうの頼まないから」と。「いえ、きちんとこうやって履歴があるし、電話番号もこうやってわかってるんですよ」と。ですから何万円分かちょっと忘れちゃったけども、「明日の朝、早速1番に送らせますんで」と言うけど、なんかおかしいんです。おかしいですよ。おかしいから、ちょっと待ちなさいと。ちょっとそこで嘘ついちゃったんですね。「うちの母はその時期、入院していた」と。「入院してたら、電話がここにかかるはずがない。そこにもしかけたなら。病院の番号が履歴としてあるけど、その電話番号ちょっと言ってみて」って言ったら、「いや、それはちょっとわからないから」と。「あなた今、履歴見てるんでしょ」とか言ったら、向こうからガチャッと切りました。やっぱりそういうのがですね、もしこれが僕がいなくて、例えば、若木町の〇〇地区の高齢者の世帯にかかってきたら、ああ、そうやったかな、って、履

歴残つとるとからひょっとしてばあさんが頼んだのかな、と、うんて言うかもしれないですよ。それでもう1つの発注になっちゃうんですね。これは本当に、周辺部対策、高齢化対策で、そういうのがなくなるよう、来月の市報か何かで取り上げていただくということで、本当に心強く、いろんな、23番黒岩議員さんもおっしゃってましたけども、駆け込み寺みたいな形で、この役所もなんらか機能していただきたいというのを言われてやるってことだったので、ぜひですね、これは本当にですね、少子高齢社会の周辺部というのは切実な問題だと思います。ぜひ、その辺のどこをやっていただきたいと思います。

それで、図書館、さっき言いました。すみませんちょっと長くなって。最初の質問ですけども、この図書館、皆さん御案内のようにですね、視察すごいですね。これ、いつも、出してる新しいやつです、こうやってきてます。これもですね。これも反対側、岡山県倉敷市。いろんな所から来られています。これも議会事務局のホワイトボードです。こんなに来てます。さらに、これはちょっと見にくいですけども、横にズラッとありますよね。これは来月の予定です。1日たりとも欠かさなくらい、ズラッときてます。ちょっとすいません、画像見にくいですが、横に図書館の「図」って書いてあるんですね。これは、図書館の視察ということだけではないですよ、実は。これは図書館&FB商品とか、図書館&病院とか、図書館&〇〇という印です。図書館単独のはこれに書ききれないから、別雑誌で取ってらっしゃるんです。それくらい、今武雄に来ている。7月だけで武雄に、100人っていわないですよ。200、300人来ています。それが落とすお金は莫大だと思います。最初の質問になりますけども、これだけ来ているんですけどね、役所っていうか議会事務局が対応できずに断っているのが多いんですね。

1つは、これ制限あります。武雄に宿泊、そして5人以上とあります。武雄に宿泊するのは絶対条件だと思います。ただ5人以上で、例えば我々の視察でも、3人とか4人とか、個人っていうのがいらっしゃるんで、それは事務局がですね、それじゃあすいませんって言って断ってるんですね。もったいないですよ。事務局のほうに聞いたら、結構な数を断られると。ですから、武雄に泊まるのは絶対条件だけど、そういうのを受けられないか。そうすると、職員さんが通常の業務に支障を起こすからというのもあるでしょうけども、いろんな対応の仕方があると思います。例えば、よく市長と一緒に対話していましたよね。例えば、議長さんとか副議長さんでもいいし、いろんな対応のやり方があるんで、そういう5人以下で視察に来たいというのは、物すごいボリュームだそうなんです。それをぜひまた武雄に逃がさないように。武雄が断ったらですね、私が1個あったのが、「4人だけだだめ？」と言われて、「4人はだめなんだよ」と言ったら、これが佐賀のほうに泊まったんですね。泊まって、佐賀の視察に行っちゃった。そういうのは非常にもったいないんで、今、何百人か来月だけでも来るのに、それにプラスまた100人、200人になればいいんで、ぜひこういうふうな、5人以下でも受け皿がつけられるような体制ができないかというのを、最初の質問にしたいと思

います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）御答弁申し上げます。モニターを切り替えてほしいんですけども、視察数が出ましたので、おさらいをしたいと思います。合併前の平成 17 年度、これ旧武雄市になりますけれども、山内、北方は入っておりません。108 名が今平成 24 年度で、1,614 名、そして今、平成 25 年度になりますけれども、おそらくこの倍近くになります。3,000 をたぶん越すと思います。それだけ多くの皆さんたちがお見えになって、だから 25 年度は 30 倍ですね。これだけ来るっていうのは夢にも思っていないで、最初日帰りでもオーケーと言ってたんですね。だんだん業務に支障が出てきたので、視察制限令を出して、1泊2日にしたら、また増えたんですね。だから今度は2泊3日にしようと思っています。やっぱりね、わざわざ来るというのがすごいたぶん大事で、来年度、ちょっと本当に業務に支障があるんですよ。私だったらいいんです。私目当てでお越しいただくんだったら、私は積極的に、杉原議長も積極的に対応してますし、前議長の牟田議長さんも積極的に対応していただいてこれは本当に助かっていますけれども、やはり業務に支障があると、本末転倒なんです。

ですので、願いを次にしたいと思うんですけども、これが行政視察風景です。職員が一生懸命説明しています。それと視察ランキングでいうと、1位が、図書館よりもフェイスブックの方が多いですね。2位がFB良品で、3位が図書館指定管理者。第4位が武雄市MY図書館で、第5位がイノシシになっています。これはだいたいこんな感じです。それで、今年度はさっきも言ったように、今でも 2.5 倍で、たぶんまた秋口からどんどん増えてくると思いますので、物すごいまた数になってくるというふうになるんですね。

願いがあるのは、ぜひね、牟田議員さんはよくやられていますけれどもね、4人以下は議会でお願ひしたい、議会事務局じゃなくて議員に。これはね、勉強になりますよ。特に1年生、2年生の皆さんたちには、本当にお願ひしたいと思うんですね。うち、やっぱね、4人以下ってすると、これ 60 倍くらいになります、試算すると。これはさすがに行政では無理なので、ぜひ4人以下の方々は議員さんで割り振ってもらって、マンデー朝長、チューズデー山口とかっていうふうにして、山口4人もいますけれども。そういうふうには、ぜひ議会で、例えば自民会派だったら自民さんがやって、公明会派だったら公明さんがやられるっていうふうにしていただくと、我々非常に助かります。そのときに、全然職員が対応しないかという、そんなことはありません。そこはちゃんとしますけれども。ぜひ。ここはせっかくお見えになっていますので、よく牟田さんやってるじゃないですか、青年議長会でしたっけ、青年議員会……

〔21 番「若手議員の会」〕

若手議員の会。結構連れて回ってるんですよ。連れ回されているんですよ。連れ回されているって言ったらかわいいですね。ですので、ぜひね、議員さんの対応をぜひお願いしたいというふうに思っています。そうすることによって、やっぱり同じ、議員さんは議員さんじゃないですか。基本的に首長さんがお見えになるときは、ほとんど 100% 日程があうことを前提に私が対応しているんですよ。首長は首長が対応する、議員さんは議員さんが対応して。あとね、今、職員さんも増えているんですよ。これは同じ文化を持つ職員がちゃんと対応するというふうにしていますので、ぜひもう 1 回、議会に正式にお願いを出そうと思っていますけど、一緒に対応のお願いができればありがたいなと思います。そうすることによって、2泊3日令は出さなくて済むようになりますので、ぜひ全国的にネットワークがえられる牟田前議長さんを中心に、この構築をお願いしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

こうやって視察、本当多い中、対応の取りこぼしがあったくないということで、やってほしいと思います。先ほど言いました、要望を出されれば、議員の皆様方でも考えていただければと思いますので、できるだけ取りこぼしがないようにやっていきたいと思っています。

これは大学の同窓会が佐賀であったんですね、学長さんが来たんですよ。学長さんが来て何を言ったか。武雄市すごいですよねって、東京の大学ですよ。学長さんが、武雄市さんすごいですよねと。実はうちもブランド力アップを狙っているけども、武雄市みたいなそういう事例になりたいと、それくらい知名度があるんですね。今度の図書館。爆発的な広がり、知名度が上がっています。

ごめんなさい、先にいっちゃいました。見せちゃいましたね、もう。きのうまで質問があったように、図書館には約 20 万人くらい来ているんですかね、オープンして。20 万人という、がばいばあちゃんのロケセットが 3 年で 20 万人ですよ。川古の大楠公園なんて 1 番最盛期のときも 12 万人。それが 2 カ月でこうやって 20 万人来ている。もう観光施設ですね、1 つの。ただ観光施設も、図書館だけに来てもらっては、もったいないですよ。横に広げないと。市長さんが言われているように、どうやって横に広げるかっていうことを、考えていただかないといけな。ぜひそういう中でいろんな方策の中の 1 つに、先ほど山口等議員さんのとき出されましたよね。スタンプラリーみたいなやつ。こういったスタンプラリーみたいな形で、図書館においていただいて、こういうところ回ったら、名前とこういうのを書いただけです。これは大楠公園ですね、これは永野の風穴ですね。こういうところに、スタンプラリーとかなんとかで広がっていくような方策が取れないか。

スタンプラリーですね、正直、私も何年前までちょっとばかにしていました。ところがですね、道の駅のスタンプラリーをやり始めると、止まらないんですね。いろんな道の駅行

っちゃんですよ。だからそういうふうはこのスタンプラリーとか、例えば 20 万人も来る図書館、そういう中から広がりを見せる方策の 1 つで、こうやってスタンプラリーができないか。大楠公園でもいい、風穴でもいい、いろんな施設でもいい。そういうようなことをして、20 万人を広げていくことができないか、ということでお伺いしたいんですけども。例えば今、1 つの例をあげましたけども、他にもっといい方法があるよと言われれば、そちらのほうでもいいし。例えば、繰り返しになりますが、これも 1 つの方法、そういうふうに広がりがある方策をぜひ御呈示ください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当に残念なのは、きのう、僕はこれ非難するつもりはないですけども、谷口議員さんが千円図書館ってあげつらえましたよね。それも、しかも人が言ったかのようにして婦人会という名前をわざわざ出されて、こうおっしゃって、これがやっぱり、結構全国的に広がっているんですよ。千円図書館というのでやゆされて、これ本当に何ていうんですかね、我々は一生懸命前向きにしようっていうふうにしているじゃないですか。それなのに、ああいうふうに、罵倒するようなことを言うっていうのは、僕はこれは議員の資格はないと思いますよ。やっぱり前向きに、いやこれは真面目に言っています、僕は。前向きに僕ら頑張ろうとしているわけですよ……（発言する者あり）それを一般の方々が言うのは、僕はそれはいいと思います。それは発言の自由もあるし、思想・信条の自由もあるけれども。議員というのは、品位の問題ではなくて、やっぱり言っていることと、悪いことって。でもあの人元議長なんですよ。議長にもいろいろいるなと思いましたがよ本当に。本当に抗議したいと思えますよ。だからそういうふうに言われると、やっぱり地元でああいうふうになっているんだとなって、客足が落ちるんですね。しかも千円図書館だと、本当に払わないと入れないようなかの印象になるじゃないですか。その分だけ我々政治家の発言って非常に重いんですよ。ぜひそれは特定の方に言っても仕方がないので、それはおかしいというのを議員の皆さんたちもぜひ言ってほしいと思います。僕は力がないですよ。それはぜひ言ってほしいと思います。その上で、スタンプラリーについては先ほど言われたようなことをやるとやる気が削がれます。正直言って、僕らはね、いや谷口議員、笑われていますけれども、笑う資格は僕はないと思いますよ。

〔24 番「言う資格はない君も。失礼だ。きちんと事実をしっかりと言いなさい」〕

〔議長「私語は慎むように」〕

私語は慎んでください、僕答弁中です、答弁中です。ですので、こういうふうに、ルールを守らないというのが、元議長がね、ルールを守らないっていうのが今の武雄市議会をよく表していると僕は思いますよ。その上で申し上げますと、たぶんね、武雄だけでスタンプ

ラリーをやってもそれは盛り上がりがない、盛り上がりがないので、これはちょっとまだ詳細には申し上げられません、相手がある話なので。全国のそういった公共施設があるじゃないですか。武雄市図書館みたいに、千円図書館じゃありませんよ。武雄市図書館みたいに注目を集める施設と組みたいと思います。その上で全国的に名だたるところと組んで、その上で来たときに、例えば風穴とかね、あそこの若木の川古の大楠とかっていうのをスタンプにする。要するにその僕は組み合わせが必要だと思うんです。全国のファイブスター級、五つ星級のところと組むと。我々が持っている星、それは価値が上下ではありません。ですので、それを組み合わせてやるっていうふうには、ぜひ考えたいと思いますので、最速で7月1日はともかくとして、10月まではちょっと待つてほしいと思います。これは相手がある話ですので、そのときに合わせて打ち出せばいいなというふうに思っております。いずれにしても、スタンプラリーはパスポートという形になるかもしれませんし、例えば全部回ったら、記念の物をお渡しするというような運びで、持っていきたくてこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

足引っ張ったらだめですね。

やっぱりもう、前向きに。こういうスタンプラリーを考えるのは、やっぱり集客力があるから、やろうと。前向きに頑張っているから、視察に来るのもですね、頑張っているところに来るんですね……。〔発言する者あり〕我々もそうです。だからそういうふうな形で……。

ぜひこういうふうなスタンプラリーとか。あといろんなさっき市長がおっしゃった、せつかく 20 万人もきているから、それを広げる方策もぜひ役所のほうでも考えていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎みなさい。

〔市長「はい」〕

○21 番（牟田勝浩君）（続）

こうやってですね、さっき言いました、風穴にしても、去年がですね、7つのテレビ局、ラジオ局が来て、こうやって来た方も 1,200 人ぐらい来ましたかね。今年はずでにですね、こういう状態で、たぶん今年猛暑っていう予想が出るんで、テレビ局とラジオ局、マスコミの取材が去年の倍々で来ているらしいですね。さらに猛暑だと、ここに行くところすごく涼しいんですね、やっぱりこういうふうな施設をそういう組み合わせで、ぜひ図書館に行って、本を読んで、それからここで頭を冷やして、いろんなところに行くと。そういうふうな方策とかいろんなことを考えていただきたいんですけども、再度市長にお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きのうは千円図書館で谷口議員に言われて、もう頭に来ていましたけど、だいぶ風穴の涼しい風がきてますので、だいぶやわらぎました。先ほど申し上げたとおり、図書館は非常に集客能力があります。多いときには、1日7,000人を超す方々がお見えになられていて、少ないときでも千四、五百人お見えになっています。

そこで、私1つ提案なんですけども、例えば今年はちょっと日程が、武雄蘭学とか一生懸命やろうと思っていますので、これは次年度以降になると思いますけども、例えばあそこ企画展示室ですよね、あそこで若木の特集をします。その風穴を再現すると。その——大きさは再現できませんけど、結構ミニチュアを市民の方がお持ちで、私今、市長応接室のところにあるんですよ、ミニチュアが、市民の方から寄贈をいただいたものが。そういった物とか写真とか、パネルっていうことを置いて、そこに関連する本を図書館に置くと、あるいはDVDを置くと、いうふうにして、そこが1つの玄関になればいい。そうすると、そこで本物を見ていきます。例えば、風穴を発泡スチロールでつくるじゃないですか。仮に。小学生につくってもらってもいいんですけども。そこに実際の吹き出し口をつくる。温度もそれに合わせるというようなことってできるんですよ。

だから、そういうふうにして最初の引っかけは大事ですもんね。僕らの言葉でよくフックと言うんですけども。フックがないと、さすがに最初からあその風穴に行くというのはなかなかしんどいので、そこでいろんなお話をさせていただくとかっていうふうにして、そこで、実際もっと本物がよかばい、ということであればそこで行ってもらおうというふうにして。

私は今、質問を承りながら、そういう町を出していけばいいなと思います。例えば武雄町ではこういうコースがありますとか、というのを月替わりで出すと。毎年、例えば、8月は今年は若木町だったら、次は武内町であるとか——お疲れさまでございます。武内町であるとか、東川登町であるとか、北方であるとかっていうふうに出していけば、そうすると、我々だけではなくて、我々も知らないこといっぱいあるじゃないですか。そうすると多くの方々が来られたときに、それこそじゃあ行ってみようというふうになると思いますので、ぜひそういう動く企画をちゃんとつくっていかなきゃいけないなというふうに思っています。教育委員会よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひやっていただきたいと思いますよ。本当先ほど市長がおっしゃったようにいろいろわからないよいものがいっぱいあるんですね。例えば、先日夜9時過ぎに、淡竹の採れたけん、食べに来いや、って9時頃言われて。菅牟田に行ったんですね。結構淡竹いっぱい出て

いて、めちゃくちゃおいしいです。眉山キャンプ場のワラビとかなんとかが物すごいおいしい。やっぱり空気とか水がいいんですかわからんが、物すごくきれい。いろんないいところがあります。だから、そういう形でこれからも、こうやって来たところ、いろんなところに広がる。観光もいろんなことをやって広げていくようにお願いしたいと思います。

ではこの次の質問にいきたいと思います。すいません、風穴。さっき映しとけばよかったですね、忘れてました。これは、福岡ドーム、ヤフオクドーム。ヤフーオークションのヤフオクドームですね。武雄は御存じの方は御存じ、知らない人は知らないですが、10年ほど前にですね、ヤフードームの1試合を借りて、冠試合を行ったんですね、武雄市の日ってことで。ソフトバンク対、どこかちょっと覚えてないんですけども。まず、周りに物産を売る。もぎりのところで、武雄市の——パンフレットを配る。そして、オーロラビジョンがありますよね。攻守交代のときに、武雄市の宣伝をどんどん行う。始球式もある。花束贈呈も武雄市。途中、途中のアナウンスも武雄市。勝利の花火も武雄市ということで、1回やったことがあります。今ちょうどさっき来たポルシェも福岡ナンバー。いろんなところで、どんどんやっぱりよく言われるのが、鉄は熱いうちに打てと。物すごい効果があると思うんですよ。こういうところでやるのは。ヤフオクドームに限らないと思います。いろんなところでこういうふうな効果のあるところでやっていただければと。10年前に実際に武雄やりました。そんなに高くなかったです。10年前厳しいときでもやりましたんで。

例えば、観光振興基金も2,000万以上ありますよね。2,000万近く。給湯基金も1億近くあります。これは給湯基金は目的税で目的基金で観光のためにしか使えないというふうな建前があったと記憶しています。ですからそういう中でこういうので、ちょうど鉄は熱いうちに打てと言う形で、いつも武雄のターゲット、福岡とかそっちのほうっていうことがよく言われています。実際、図書館も福岡近辺からよく来られています。こういうので、もう一度こういうふうなPRができないか。さっき言った、いろんな風穴にしても、大楠公園にしても、飛龍窯にしても、おつぼ山にしても、楼門にしても、いろんなPRがここでもできるという、そういう考えがないのかっていうのを伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

ヤフードームでのイベントにつきまして、ちょっとお金のことを言うとなんですけれども、とりあえずどれくらいかかるのかな、と問い合わせをしてみました。使用料としましては、最低500万は必要だという返事でした。

その中で、武雄は現在、無料でマスコミ等が宣伝をしてくれますし、市長のトップセールスあるいはフェイスブック等で情報発信等もありまして、注目が集まっています。

そういうことで、高額な費用を使つてのイベントについては、費用対効果を勘案してやり

たいと思ってまして、その中で今、いろんな形で補助金等もありますので、そういうのを活用して出来たらですね、やりたいですけども。今のところ、いろいろな形で勘案させていただきたいということです。

〔21 番「わかりました」〕

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

部長、ありがとうございます。500 万というのは、ゴールデンウィーク、土日の1 番のときの金額を言われましたよね。そうでしょうか？平日のやつ全然違いますよ。さらにキャンセルが出たときは全然もっと安いです。そこまで調べてらっしゃいますか。してなかったでしょ。はい。そういうのもありますけど、500 万といわれると皆、高いと思います。でもゴールデンウィーク。何というんですか、1 番最後のベスト3 がやるやつ、クライマックス。クライマックスとかそういうときがその金額なんです。確かにそのときは注目がいきますよね。そういうときはコカ・コーラとか、大きいところがスポンサーにつかれます。平日はさらにその半分。キャンセルのときはさらに半分。いろんなサービスもできると。とりあえず、こういうことがあるっていうことで、部長さん、もう1 回聞いてみてください。

では、観光の面に関しては、今ずっと、つらつら言いました。いろんな地域のいろんなイベント、そしていろんな施設。そういうのをこれからもですね、観光課の人たち、いろんな方々、もちろん地元も頑張ります。地元も頑張りますし、観光課、そういうところの中でいろんなことを考えて、ともに協働して頑張って、足を引っ張ることはありません。ともに伸びるという形で、頑張っていきたいと思いますので、ぜひ、これからもよろしくお願いします。

では、2 番目の、教育のほうに入りたいと思います。2 番目の教育。これは、武雄北中学校ですね。タブレット導入。これは、武雄北中だけじゃないです。市内全てがタブレットが入る。それはもう、先日ですね、黒岩議員さん、つらつら保守点検料、いろいろなところで聞かれてきました。

そういう中で、ちょっと1 つだけ。慶応の教授の松尾亜紀子さん。武雄北中に講演に来ていただきました。これは、ちょうど市長が、委嘱状をやっているときですね。講演の模様の画像がなかったので、これになったんですけども、彼女がさっき来た武雄北中学校でどのような講演をしたのか。彼女、いきなり子どもたちに、この中で英語が好きな人、はい。英語が嫌いな人、はい。英語が苦手な人、はい。されました。あんたたちねって、なんばいいよってねと。英語が好きか嫌いじゃなくて、あんたたちが大人になったときは、できて当たり前よと。好き嫌い言いじゃんって。子どもたち、ぐらいきとったですもんね……（「あんま佐賀弁で言わんとって」と呼ぶ者あり）すいません。子どもたち、ほんとぐらいきとったです。ところがさっき言ったように、今度はタブレット、タブレットも同じことです。あ

なたたちが大人になったときは、このパソコンじゃないわよ、もう全部これ。だから、早くこれに慣れないといけない、英語もそうだと。ですから、これからのビジネスで必要なのは、ビジネスというか社会に出たときに必要なのは、英語と、こういうもの、と言われました。子どもたちはさっき、ぐらいきとったけど、やっぱり彼女が言うのも、当然のことだと思います。当然と言ったらいけないですけども、やっぱりそういうふうなことが言われていました。そういう社会に変わりつつあります。そういう中で、武雄市全部のタブレットを配るという意義。そして、今武雄北中学校を例に出しました。なんで武雄北中学校、もちろん、この松尾教授が講演した例もあります。

ただもう1つだけ。武雄北中学校は、19年前、全国の100校プロジェクトっていうのに選ばれ、全国で何番目かに中学校のホームページをつくったところなんですね、中学校のホームページを。言語で全部つくって、当時の中学生が。その当時は、九州で1番ITが進んだ学校と言われてたんですね。武雄市は、全国でも有数のITということで、研修とか、全国から来られてたそうです。そういう中で、子どもたちを対象にタブレット。物すごく歓迎するし、そういう社会に出たときに、物すごくプラスになると思う。武雄の子どもは、これ全部できる。つらつらできる。そういう中で、黒岩議員さんがいろいろきのう、聞かれましたけど、その中で、やっぱりこういうふうに配って、その先に武雄市が目指すものは何なのか。これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

タブレット端末の小中学校への全員へ、ということは、本当に、児童生徒も、それから先生方にとっても本当に強い意欲付けになると思います。それを進める中で、やっぱり、今、情報をどう活用し、発明、表現し、処理し、という情報をどう活かし活用するかということが非常に今から大事になるだろうと。子どもたちのこれからの社会に生きる力としてですね。それからもちろん片方には、冒頭言われた、英語なり、国際理解の力も、もちろん必要だと思います。そういうふうに、これからの社会を予想したときに、なくてはならない力、そういうものを、全市あげて取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今教育長がおっしゃいました、そういうふうにぜひ武雄の子どもたちは頑張るぞ、と。武雄の子どもたちはすごい、と言われるようにお願いしたいと思います。

続きまして、教育問題の教科書。教科書というのは何度もここで昨年から取り上げております。これ、1回去年出しましたね。教科書変わりましたおかげさまで。教科書変わって、

表現、これ言ったと思います。ポツダム宣言を發表し、日本はこれを全く無視し、と書いてあったんですね、今までの教科書は。全く無視し、と書いてありました。今度、武雄市が選んだ教科書。ポツダム宣言を發表し、日本は求めました。しかし、日本はすぐにはそれを受け入れませんでした。全く無視してから、そっちに変わったんですね。やはり、表現1つで、物すごく子どもたちの受け方が違うんです。全く無視しというのと、こういうふうに、すぐにはそれを受け入れませんでした、これ同じなんです。英語で当時の鈴木貫太郎首相が、当時「If more」という言葉で訳されたんですね。でも、当時のアメリカは、「Take no notice」と訳されていました。そういうふうに、全然違うけど、片方の教科書では、そういうふうに、片方の教科書ではきちっと書いてくれている。「Take no notice」はニューヨークタイムズでした。

で、もう1つ前の教科書。孫文の生い立ちを調べてみようというのがありました。他の日本人の生い立ちを調べる、日本の歴史教科書ですよ。日本の歴史教科書だけど、孫文の生い立ちを調べましょう、と載せて。何で、日本人は1人もいなくて、こうやって外国の人をしなきゃいけないか、と言いましたけど、今回はそういうのも見当たりませんでした。

次、例えば、元の、元寇の文ですね。元寇の文でも、すいません、ちょっと、日本に遠征軍を派遣しました、だったんですね、前の教科書は。元が日本に遠征軍を派遣しました、何かおかしくないですか、表現が。日本人が習う教科書だったら、元が攻めてきましたと書かないといけないのに、元は遠征軍を派遣しました……（「どこだこりゃ」と呼ぶ者あり）と前の教科書は書いてたんですね。今教科書はちゃんと元は高麗軍を引き連れて攻めてきました、に変わったんですね。今までの教科書で習った子どもたちは、やっぱり今年からはいいですよ、今年からこの教科書に変わりましたから。でもやっぱり……（「うん、おかしか」と呼ぶ者あり）おかしいですよ。

例えば、そういう中で領土問題。領土問題も北方領土と出てます。ほんの百何十ページのことだけです。さらに、今言われている領土問題。竹島、尖閣。小学校1年から中学校3年生までの授業で、これだけなんです。ほんの、すべての教科書で3行。各国とか、中国を見ると、ここだけで何十ページって割いているんですね。そういうふうな中で、このような形で。でも、今までの教科書よりもよくなったと思いますけども、問題は、教科書を選ぶときに、いまだに秘密会議していると……（「そうですね」と呼ぶ者あり）それをきちんと公開制度にできないかと。教育長はなんで秘密会議、選んだ理由も言えない、選ぶ人も言えないという秘密会議の理由が、出版社からの攻勢があるからってということで、言われましたけれども。例えば、我々議会は年間で200、300億の予算を決めてるんですね。我々の賛成反対で。市長たちも同じだと思います。同じ立場だからそれを公開して、我々はこうやって選んだんだよとやっていいと思うんですけども……

〔市長「全く同感」〕

なんで秘密会議でやらなきゃいけないのか。例えば、こうやって議会でして、初めて知った人って多いと思うんですよ。自分たちの子どもがこういうふうな教科書だったというのが。ぜひ、その辺のところの今後の方策をお伺いしたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

教科書採択につきましては、前回も話したとおりであります、個人名を出してということでございます。私も生まれていなかった時代ではありますけれども、教科書採択につきましては、非常に大きな教科書疑獄事件というのが、御承知の方もおありかと思えます。採択に絡んで非常に不正があったということで、そのあと、教科書制度が国定制度に変わった経緯というのがあるわけでございます。そういうことも含めまして、反省の上に立ってですね、現在その教科書の採択については、県立高校は違いますけれども、義務制の学校につきましては、県が指定する採択地区で、採択地区協議会を開いて、選定委員、研究委員、採択委員ということで進めているところでございます。前々回からですね、この採択委員会には保護者の代表の方も入っていただくということで、進めているところでございます。人数が各教科に分かれてしまいますと、非常に絞られますために、この選定委員の名前が出ましたときには、本当に教科書会社からの、強い要望等が出てくるわけです。そこを影響なく、静ひつな、静かな環境の中で、選定作業をしてほしいということで、このへん2市4町でやるわけですが、採択協議会では、その選定委員については、名前は公表しないという形で、進めてきているというところでございます。状況としてはそういうところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は納得できません。やっぱりね、そういうふうに密室でやるからね、こういったおかしな教科書が僕は出てくると思えますよ。しかも我々だって一緒ですよ。公開の場でするときに、僕も意思決定するじゃないですか。いろんな攻勢きますよ。だけどそれは個人の良識、良心・良識にしたがって、私はそれは不偏不党。市民価値の高いものを選ぶって。決定っていうのはそれだけ重いんですよ。だけど、これは政治家たる私たちと、あるいは教科書選定に関わる人とそれは、違いはあるかもしれない。ですが、全く密室っていうのはこの時代絶対にありえない。教育長の心配することはわかるんですけども、じゃあどうやって決まっているのっていう我々も、私も全然知らないんですよ。報告も求めていますけど、全然知らない。むしろ、たぶん今の形だったら、僕が教えてと言っても教えてくれないでしょ。それはルールに乗っ取ってやってもらっていますから、それはそれでいいと思うんですけど、本当に国民的に関心が高いじゃないですか教科書って。確かに一部の教科書の出版社の方々が

攻勢したにしても、それはやっぱりもっと重きものはなんだと、いったとき、私は、公開だと。原則公開はしかるべきだと思うしね。そこに保護者が1人2人入ったって、変わらないですよ。そんなの言い訳にしかすぎないですよ、ちゃんとやっていますっていうね。やってませんよ。僕はそう思いますね。本当に、これだけ国民の皆さんたちが、我々の教育を心配してくださっているということであれば、それはきちんと、どういう選定過程が、どういう人が選んで、どういうふうになってるかっていうのを、ちゃんと出す義務があると僕は思います。だからこれはさっき――教育長、2市4町だけ。

〔教育長「はい」〕

2市4町でやっていて、合意がとれなかったら、武雄市だけで単独でやればよいと思いますよ。他の1市4町がね、反対するからといって、我々の決定を変えるということはないと思うし、これはもう少し教育委員会でちゃんと議論してほしいと思いますね、僕は。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当にそうなんですな。

私も1番最初に見たものはですね、日本はこれを全く無視し……

〔市長「そうですよ」〕

という表現をなんで日本の教科書が使わんといけんかと。こっから始まったんですね、で、他んどこ見ていったらズラズラズラ。これは今の教科書ですけども。やっぱりなんでこの教科書を選んだかっていう、選定過程を前提にきちんと公開して、これに選びましたよ、そういうのをぜひ教えてほしいと思います。ぜひ今後は市長も言われましたけど、いろんな面で考えていていただきたいと思います。もう一度、お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それで、私は、さっきごめんなさい言い忘れたことがありますして、全部の科目をやらなくていいと思います。例えば理科でそれをやるって言っても答えがある程度決まっているじゃないですか、他のところと比べて。絶対にやらないといけないのは、歴史のところですよ。地理も、よく見ると、我々が使っていたときの教科書はでたらめです。地理も。例えば、特定の国のお名前は挙げませんが、その国の名誉のことがありますので。今読み返す機会がありまして、見たらでたらめですよ。僕らこんなん習っていたのかと。

教科書は自由に書く権利があります。出版社の方々に僕は言うつもりはない。しかし、僕らは選ぶ権利と義務があるんですよ。少なくとも僕は歴史、それと地理の部分については、これはやっぱり出すべきだと思いますけども。市民の皆さんどうでしょうか。そういうふう

には思っています。ですので、教育委員会ではね、本当に教育委員会の中で真剣にちゃんと議論をして、また議会の場でね、これこそが僕は一般質問だと思うんですよ。だからそれは教育委員会の言い分というものもあるでしょう。それこそ議論で決めていくべき問題だと私は思っています。私の考えは以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

歴史と地理なんですね。郷土愛をもたなきゃいけない子ども、郷土愛を持たせるためには、やっぱりですね、こういうこと書いたらだめですよ。書き方1つですもん。

「全く」とかですね、もう何なんだこれはと。遠征軍を派遣しましたって、中国の立場ですよ。中国の立場でしょこれ。普通、日本の歴史教科書だと、向こうが攻めてきましたと通常書かなきゃいけないのを、こういうこと書いている。今回の教科書はちゃんと選んでらっしゃると思うんですけど、ぜひそういうとこをきちんと見ながら、こういう形で選びました、と正々堂々と言えるような選定方法をお願いしたいと思います。

続きまして、これさっき言いましね、領土問題にしても、よそは何十ページって使っているのに、日本は小学校1年生から中学生3年生までの何千ページの中で、ほんの3行ぐらいっていうのもちょっと、寂しいっていったら寂しいですね。

次は2学期制。これはもうずっと私がやってるやつです。あの——言うに及ばず、2学期制から撤退するところが続々ですね。前回一般質問を私がした翌日に、唐津が2学期制を撤廃しましたね。でその後、倉敷も、撤退した。石川県も撤退した。たぶん、全部撤退する。そういう中で——これは佐賀新聞です。佐賀新聞で、こういうことが出ていた。ちょっともう字が大きいので読みますね。基本的にですね保護者アンケートをして、75%がもう3学期制に戻してくれと。2学期制の維持はもう5%しかなかった。そういう中でもう、変えられた。

武雄は前から言っているのに、アンケートひとつ採らない、で理由は2学期制が定着してきたからと。何を基準でそういうふうに使われているのか、何をかたくなに2学期制に、こうやりたいのか。保護者はどういうふうに使っているのかアンケートを採る、って言うけど、なんかの途中の端っこに、全体の中でどうですかっていうことで聞かれてるアンケートだったですね。

小学校は県内180校中13校が2学期制。今、武雄は何校ありますか。この武雄がほとんどですね……（「そうなの」と呼ぶ者あり）で中学校96校中13校が3学期制……（「2学期制」と呼ぶ者あり）2学期制ごめんなさい。こういう中で戻ってるんですね、全国的に全部戻ってるんですよ。そういう中で何でしがみついているのかがよくわからないし、それでもいいと思います、きちんとアンケートを採ってやれば、私はいいと思うんですよ。ところ

が、私は正直言って、たいした理由もなく、こうやって、たいした理由もなく、と言ったのはごめんなさい。理由はあると思います。理由があるからこうやってしてると思います。何でやってるのか。

2学期制の最大のメリットは、「授業数の確保」これがもう最大限の理由です。それと通知表を3回つけたのを2回で済む「先生の軽減負担による子どもとの接する時間の増大」これだったんですね。でもこうやって3学期制が戻ってきた。武雄市でも前から例を言っています。3学期制のときの先生の出張数が、2学期制になったら何で倍になるのか。子どもたちのためになっているのか、質問しましたよね。いろいろまだつらつら同じ質問をするとあれですから、ぜひアンケートを採っていただきたい。今回の質問はそれのみでございます。ぜひアンケートを採っていただきたいんですけども、いかがでしょうか？

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いろいろ御意見、いただきました。アンケートは採ります。採った上でですね、とりあえず、誤解がないように申し上げますけれども、厳木中の例を出されましたね。75%ということですね。これは唐津市等の中で、厳木中だけがやっていたからということでございます。

現在、この校数からいきますと、武雄市と嬉野市が2学期制をやっております——主にですね。ですからそういう中でそのメリットは、時々ある中で話をしているわけでございますけれども、要望として、再度出ておりますので、アンケートは採りたいと思います。

ただ、含み置きいただきたいのは、山内中が21年度、4年目ですかね。北方町の学校が22年度から実施をいたしております。

1番、仮に変えるとして危惧されるのは、大きな学校のその制度を、短期間で変えることのマイナス面、これは十分配慮して考えていきたいと思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

一部教育長に同意するところと、全く同意できないところがありましてね。変えるんだったら早く変えた方がいいですよ。これが根付いてからね、変えるってなると、余計変えるエネルギーがいるんで、やっぱりこれは、過ちは——何て言うんですか。

〔25番「過ちては改むるに憚ること勿れ」〕

そうです。本当に平野議員さん本当に誠にありがとうございます。それは質問の時に活かしてほしかったんですけども。今中学校の、96校中のうち13校で、もう1回、小学校の見せて——これは僕もちよっと初めて知りましたね。ごめんなさい。小学校で県内180校中13校が、どの時点か、新しい話だと思いますけれども、それが3学期制であるっていうこと

は、やっぱり2学期と3学期と比べると、比較の問題としてね、いい悪いは別にして、3学期がよかったな、っていうことは、その流れはその通りだと思います。

ただし僕は、牟田議員に、ここは何て言うんですかね一致できないところがありましてね。アンケートがすべてじゃないんですよ、これは。もしアンケートを採るとするならば、教職員にもちゃんと採らないといけない。あるいは、地域の皆さんたちにも言ってやって採る必要があると思うんですよ。ある意味、3学期、2学期っていうのは保護者だけの問題じゃなくて児童、生徒、それと教職員なんですよ。そこを採ったときに、ここは3学期が多いから修正するのではなくて、いろんな意見を一回、ちゃんと汲み取った上で、そこは教育委員会が自立的に、ここは議論すべき——ここは教科書問題とちょっと違うと思います、ここは。そこは、教育委員会が、教育を所管している教育委員会が、最終的には責任で決めるべき話だと思っています。私自身の考えは、この質問を聞く前はね、やっぱりもうせっかく変えたけん戻さんとよかばい——いいです、とっていましたけど、だんだん3学期制がいいかなって思っています。やっぱりね、さっきの数字はショックでしたね。かなり戻っているということであればね——それは、私の意見であります。ただし、先ほど言いましたように、別に僕の意見はそんなくする必要は、教育委員会は全くないです。これは政治家として申し上げたに過ぎないんで。教育委員会でそこは、しっかりアンケートも1つの要素として、最終的には決める、というプロセスが大事なんではないかなというふうに思っております。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

静かに。私語は慎んでください。

21番牟田議員（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

私語は慎んでください。質問途中ですから。

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

竹が折れにくいのは、やっぱり節が強いからですよ。節々がある。そして、この3学期制というのは、明治5年、学校制、そしてそういうのが始まって以来、脈々として、制度を大きく変えるって、変えたのはこっちなんです。ですからそういうのも含めてやっていただきたいと思いますし、市長が先ほどおっしゃいました、教職員のアンケート。これ、全部元に戻した横浜市も、教職員さんに全部聞いたらしいんですよ。そういうふうに、教職者も、もちろんその中に入ってらっしゃると思いますし、そういう形でアンケートを採って、それをそのまま活かすんじゃなくて、また練って、揉んで、叩いて、こうやってきちっと。

2学期制、3学期制どっちがいいってのは、いろんなメリット、デメリットがあるんでわかりませんが、私は3学期制がよいと思っている方なんですけども、そういうことで判断して、今後の教育に生かさせていただければいいと思います。

やはりですね、戻すのが……根付いたからって、一番可哀想なのは子どもなんですね。変えるエネルギーが大変だから、戻すのがあれだとか言ってるのは、子どもが可哀想ですよ。ぜひそういうことでやっていただきたい思いますし、再度市長の意見をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当に教職員の皆さんたちはかわいそうなんです。前にも私から答弁をしましたけども、本当に武雄の教職員の皆さん、私も直接、間接、友人、知人がいますが、本当によく頑張っています。頑張っているんだけど、その中でちょっとかわいそうなのが、例えば、研修が多すぎる。あるいは書類の提出が多すぎる。そうすると子供たちに向き合う時間っていうのは、それは必然的になくなりますよ。私の妹は2人とも教諭です。話をすると5年前、10年前と比べると、ペーパーが圧倒的に増えている。だから上野議員さんが教職員をされたときと、全く今は違うんですね。ですので、それはね2学期、3学期の問題ではなくて、教職員の皆さんたちが子どもに向き合う時間をちゃんと確保するっていうのはね、僕はね政治と行政の役割だと思いますよ。

学校の先生は聖職だと思います。一定の尊敬があって、社会的な地位があって、そして僕ら政治家とか公務員とは違うんですよ。子供たちに尊敬を持ってもらうっていうのは、僕は本当のあるべき姿と思っていますので、本当にそういう、誇りであるとか、勤務の条件であるとか環境であるっていうのはね、そこを僕は、議論すべきだと思いますね。

県の教育委員会とか文科省とか、市の教育委員会とかがっていうのは、ふくそうしていて、学校の先生全部とは言いませんけれども、かなり上を見てるっていうのもあるんです。ですので、その例えば、書類の提出は不要っていうふうに原理原則をきちんとする必要があると思いますけどね。今度、県の教育長にも言っておきます。本当に大変なんです。本当にね頑張っているのが――疲労とかね。だからもう今、学校の先生になりたいけど、本当はなりたくないっていう教育学部の学生たちは増えてますもんね。それ何でね、と聞くにですよ、やれマスコミからひどく書かれる、と。佐賀新聞は違うと思いますよ。マスコミからひどく書かれて、かつ、その上で、保護者からのモンスターペアレンツの問題があるじゃないですか。いろいろ言われて、そしていろんながんじがらめになって、なりたくないっていう生徒さんたちもいるんですね。そういう環境をきちんと変えていくということも2学期、3学期制のアンケート、もうどっちがいいとかがってというような白黒じゃなくてね、そういう要望もぜひ教育委員会がするときには、ぜひそれをちゃんと聞くということも大切だと思うし、ぜひ教育委員会、我々とも共有してほしいんですよ。大体、教育委員会は教育委員会で終わっちゃうんですよ。なんで、そこはぜひ共有をお願いしたいとこのように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先生は、大変だと思います。

〔市長「大変」〕

僕が嫌いな言葉ですすね、よく、生徒と同じ目線でっていう言葉があるんですすね。教える者と教えられる者が、同じ目線なわけがないですよ。やっぱり先生は、きちんとそういう重みがある。聖職である。同じ目線に立つ必要なんかない。きちっと。気持ちはわからなきゃいけないですよ。そういうふうな重みがある、聖職です。そういう中で先生の意見も十分聞きながら、今後の武雄市の子共たちの教育に対して頑張っていたきたいと思いますし、私も文教委員ですので、できるだけお手伝いをしたいと思います。

では続きまして、教育の――。すみません教育の方です「蛍の光」「仰げば尊し」。うちの子ども、武雄市立小学校を出て、武雄市立中学校を出たけど、「蛍の光」歌えません。「仰げば尊し」歌えません。学校、教えてくれません。卒業式で、この前、武雄北中、若木小学校の卒業式の時に、こういうふうな歌が、仰げば尊しでしたかね。出ました。市内何校かは使われましたけれども、やっぱりあまり使われてないんですすね。ぜひですすね、こういうのも一すみません、これは質問というよりお願いです。こういうのも教える中に入れてほしい。必修科目から外されていますから。音楽の1年生から6年生、中1から3年生まで借りて、全部読みました。必修科目は全部外されています。ですからこういうのもですすねぜひ入れて、区長さん方もですすね知らない歌、今の流行り歌ばかりらしいんですすね、卒業式。それはそれで子供たちの卒業式だからよいと思うんですけど、これくらいは少しは教えていただくような方針でやっていただきたい。これは要望です。ちょっと時間がないので、飛ばしていきます。

続いてですすね、武雄北中学校のトイレです。今度、フットサルのできるような形で、武雄北中学校の体育館をきちんと整備していただけるんですけど、フットサルというのは子供たちも、家族でよく見られるんですけど、私が北中いていたときから全く変わってないですすね。ちょっと飛ばしますすね、こうやって、戻しましたけど。家族で来られる、いろんなところから来られる中で、整備計画をできるだけ早めてやっていただきたいというのが要望です。ちょっと教育に関して2点、ちょっと要望で飛びましたけども、あの答弁はすみません、用意していらっしゃるんですかね。（発言するものあり）そしたらこれよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

屋外のトイレにつきましては、年次計画で整備するようにいたしております、本年度に

つきましては、北方小学校の屋外トイレを整備をする予定でございます。武雄北中学校につきましては、26年度に予定をしております、以後27年度以降は山内中学校、武雄小学校、北方中学校、川登中学校という予定で年次的に整備をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

次年度ってということなんで、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、誘致企業に関してです。これは、若木の工業団地ですね。西島さん、豊田成さん、サニックスさん、ずっとあります。今度、タケックスさんがこちらの方に入られました。タケックスさんですね。こういう中で、タケックスさんの会社創業記念っていうのがあって、ちょうど前田副市長さんもいらっしゃったんですけど、そういう中で、感謝状みたいな形で、タケックスさんに武雄市から市長名でやられました。そのとき物凄く喜ばれたんですね、タケックスさんが。その後、若木町の振興協議会という所で工業団地の方々、工場長の方々と懇親の場があって、「いいね」と、「そういうの貰ったら、我々はぜひ玄関に飾りたい」というのはいろんな業者が入ってくる中、「うちはこうやって市に認められた企業だよ」というのを見せたいって、ほぼ全部の工場長さんがおっしゃってました。

例えば、誘致5年目のときに1つ表彰状をやる、10年目にこうやって感謝状をやる、15年目にやる、20年後には例えば――、一緒にやるとか。そういうのをぜひ、やってほしいという要望を受けました。というのはやっぱりですね、いろんな企業とかなんとかってのはもう、やっぱり信頼だそうです。そういうふうに行政からきちんと表彰を受けてそういうのが玄関に飾ってあると、信頼性も違うと、お得意先が来ても違うと。是非ですね、表彰規程の中にこういうのを入れていただきたいというのが1つです。

もう1つ、地元を雇用しているところは、さらにもう1つ感謝状をやっていたらいいというのが、武雄市内の人たちを雇用してるところには、これだけありがとうございますと。例えばこれですよ、「どっちを選ぼうか」ってしたとき、それで「こっち」ってなるかも知れんです。

次、そういう中でさっき言った、誘致何年というところで感謝状、さらに武雄市内の人たちをこれだけ雇用してくれてありがという、という感謝状。この2つを表彰規程に入れていただけないかと。ただ地元企業さんとの関連もありますので、その辺は十分取扱いに注意して、ぜひやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

半分賛成、半分反対です。賛成の方から申し上げますとね、確かに企業というのは永続するというのは、すごくやっぱり大事なんです、それが信用にもつながりますし、安定にもつながるという意味で。先ほどちょっと副市長とも話をしましたけども、5年、10年、15年という節目の時期に表彰するという事は、表彰規程に直ちに盛り込みたいと思います。

これは誘致企業であっても、例えば中山鉄工さんなんか100年になるわけですよ。です、それは分けることなく、創業して、あるいは誘致を、来ていただいて、そのスタートラインは考えないといけないんですけども、そこは差を付けないようにしようと思っています。です、そういうふうに長く――継続は力なり。長く、武雄市のためにやってくださっているような所はきちんと表彰規程をつけて感謝状をしたいというふうに思っています。これはお約束します。

反対の部分というのは、確かに市内の方々を雇うってということについては、武雄市長としてはありがたいと思っているんですけど、そうはいつでも、多久市の人はどうなるの、伊万里市の人はどうなるのっていうので、そこで表彰っていうのはなじまない。しかも基準が難しいんですよ。何%といったときにね、それはさすがに難しいんで、そこは表彰にはなじまないかと思っていますので、そこはちょっと無理かなと思っています。でも、いいことはすぐやります。やりますので、表彰規程の前半部分については、ぜひさせていただきたいと思えますし、貴重な御提言は本当に感謝をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当、誘致企業、これから先も宮裾、いろいろな企業が来ていただけると思うので、そういうよい関係を結べるように、表彰規程の方に入れて欲しいと思います。

そして、誘致企業の中でですね、今どれだけ問い合わせがあるのかなんとかってのも聞きたいんですが、ぜひですね、企業誘致課だけでは大変です、いろんなネットワークがこちらの議員にもあるでしょうし、いろんな方々にもあると思うんですね。そのネットワークを広がるような形で誘致を引っ張ってくる様な、そういう仕掛けをつくっていただけることを要望して、次の質問に行きたいと思います。

最後の、周辺部対策です。周辺部対策ですけども、これは私、いつも質問をさせていただいています。若木小学校、人口が2,000人きっていったのが、いつの間にか1,800人になった。例えば、若木小学校が100人くらいしかいないところに、例えば、橘小学校も100人しかいない、東川登もそう、西もそう。周辺部は本当に人が少なくなってます。人が少ないというのは、真綿で首を絞められているような形でいろんな弊害を起こすんですけども、そういう中で、今まで若木町のこと、いろいろな質問、要望をしてきました。国道498、女山トンネル、いろんな形でお願いします。太陽光村、これは先日、婦人会総会の時に来ら

れて、きちっと説明していただきました。いろいろなことや、道路整備もお願いしてきました。きょうはそういうのはいません。

私が胸につんのかったのはですね、去年の9月、去年の6月、そして12月にもちょっと触れた。なんか町おこししないですか市長、といった。そういう中で、私の胸につんのかった。

学校も例えば、給食でアレルギー体質の人とかなんとかをきちんとやりましょうとか。そういう中で、校区を撤廃していろんな校区を考えてやりましょうとか。そして特色ある学校づくり、そういうのをきちんとやれば、町おこし、いろんなことをやるよりも大きな町おこしになりますよという答弁を以前いただきました。これがつんのかっとうわけですね。

前の質問で、7月1日の発表とかなんとかってのがありましたけど、本当に期待するところなんですね。いろんな町づくりの中で、そういうふうな教育に絡んだ町づくりってのがあるということで、初めて、私この議会で教えていただき、私も勉強しましたけども、太陽光村とかいろいろな、今回は、その特色ある学校づくり。こういうので、どういうふうな町づくりもプラスしてできるのか、7月に発表うんぬんとありましたけど、ぜひですね、そういうのを含めた上での——周辺部対策、学校対策、教育対策も教育も含めてですね、教えていただきたいと思います。

給食に関しては、1つだけですね。小学校の給食のやつが新聞に載っていましたが、去年は武雄北中学校が表彰を受けまして、給食の残りが1人あたり1グラム以下と。だったのですかね。1人あたり1グラム以下しか給食を残さなかったという表彰を受けています。いろんな食に関してできると思いますけども、食に限らずいろいろな項目、アレルギー対策、特色ある学校、そういう中で、どのようなことを町づくりとして考えていらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ブログ等でも出しましたけれども、7月1日の会見については、延期をします。これは牟田議員から御質問がありましたので、答えますけど、ひとえに、私の調整能力不足であります。不徳のいたすところであります。期待をしていただいた全国の皆さんたちにお詫びを申し上げたいと思います。7月1日も、来年の7月1日とだけ思っていたらありがたいと思います。

次の質問で、特色ある学校ということで御質問がありましたので、お答えをしたいと思いますけど、今日の西日本新聞。これはコピーですけど、前田記者さんが、こういう記事を、これ若木小学校の記事を出されて、（記事写して示す）これは何をやっているかということ、野菜を育てて心をはぐくむということで、栽培から加工まで、給食の食べ残しの大幅減につながっている、ということで、「僕キュウリ大好き」「トウモロコシも好き」っていうことで、

若木小学校の1年生の皆さんたちが、畑でいろんな世話をしている模様が出てきます。

武雄市では、何年か前から、給食を食事の時間ではなく、5時間目の授業として位置づけて食育に力を入れてます、っていうことを書いてくださってまして、これは本当に教育委員会よく頑張っています。そして、うち——市長部局の食育課とうまく連携をしていますので、これが、だんだん、こいうふうに、効果が出ていると。さらに私は何度も、去年、おとし、その前から言っていますとおり、それでも特色ある小学校じゃないと生き残りはできないと思っておりますので、キーワードは3つあると思います。

1つは私も小学校の時は不登校でした、保育園は中退です、大学の時は引きこもりです、高校の時も重度の引きこもりです。こういう自分が、不完全な自分がね、あえてこれ自分のことですよ、自分がやっぱり行きたかった、小学校。不登校でも、やっぱりそういう学校に今でも行きたかったと思うんですよ、名門、朝日小学校に。なかなか僕の場合、どうして、集団行動ができない、協調性もない、友達もほぼゼロ、です。なのでそういう子が行きたいってような、不登校の子が、行きたいってような小学校っていうのはまず1つ。

もう1つはICTです。これは、タブレットを今度お配りすることに、子供たちに配ることになりますので、例えば、ケガだったり病気だったり、っていうのでどうしても行きたくても行けない子の対応にもなるし、黒岩議員さんがおっしゃったように、貧富の差がこれで解消するわけですよ、持ちたくても持てない子だっているわけですよ。そういうふうにICT、中身もそうですけど、機会を——まあ機会というかオポチュニティーですよ、そういう機会をきちんと与えるという意味でも、ICTっていうのは絶対、特にタブレットは大事だと思っています。

それと最後に、これがいい小学校だったら、場所関係なく移住が始まります。そういうカリキュラムをすることによってね、引っ張っていく。これは、どういうふうにやるにしても、学校の先生が主体であるべきだと私は思います。学校の先生が主体となってやるべきだと思っているので、ぜひね、そういうカリキュラムも含めて、そういう小学校が出てくるっていうのを我々は応援したいと思っていますし。これこそ地区の総意なんですよ。

例えば、若木町っていうのは振興協議会っていう協議会があって、しょっちゅういろんな御指導を賜ってますけど、そういった地区が、自分たちの小学校はこうしてほしい、というのがないとね、いざやったにしても地区が反対ってなるとね、進まないんですよ。あるいは地区は無関心ですって言ったら、それは進まないんですよ。だからね、そういうふうに温かい環境のところとね、ぜひ組んで。小学校全部——武雄市内のね、小学校、中学校を全部やって、それは無理なんですよ。我々とすれば、できるところからまずやろう、ということは思っていますので、またその、いろんなね、こういう事をしてほしいとか、こういうことをすべきだというのは、地区の方からも話をしてほしいなというふうに思っております。

私からの答弁は終わりにしますけれども、7月1日、教育関係でね、会見をするっていう

ことについては、私の本当に、やっぱり調整能力がないなと思いました。突破力もない、何もない。どうもすみませんでした。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

私はちょっと、楽しみにしていたんですけど……〔市長「ごめんね」〕先ほど言われました3つのやつ、最後の、移住のカリキュラムなんですね。私よく聞くんですよ。例えば企業誘致にしてもまず何を見るか。「病院」そして「買い物」そして「教育」。それで、企業は来るところが多いと。人も同じだと。教育が、そこが特色があるとか、いろんなカリキュラムを組んだら、移住してくるくらいあると。これはもう、市長から教えられて勉強したら、ほんとに全国そうなんですね。すごい移住があって、ぜひそういうのを取り込んで、我々も地元としてもいろんなことを考えていきたいと思いますので、ぜひ、これを一つ大きな周辺部対策として頑張っていきたいと思いますし、我々も勉強していきたいと思います。

では、周辺部の最後、「みんなのバス」こうやって回っていただいています。前から何度も取り上げてますし、同じ松尾議員さん、そしていろんな人たちが、こう、取り上げてきているんですけども、若木町がですね一番乗降率が今のところ低いんですね、というのはですね、武内町さん、店があります「Aコープ」っていう店、そして「JA」も今、武内で1つになりましたんで、あります。

他のところもお店があります。若木町ってのは、お店がないんですね、そういう中で昔から言われているのは、なんとか武雄か北方、できればですね、今話題の図書館まで行けるとか、病院まで行けるとか、後は、例えばですね、向陽園ってあるんですね、そこ若木町の人たちとか周辺部の人も結構いっているんですよ。そういう中で、大型バスが入らない地区まで、これは入っていきます。そういうので送っていただければ、本当に地域の人たちは助かると思うんですよ。

例えば、大型バスが——何と言うんですか——若木のどこどこ地区の細い道行かないからそこまで降りてきてくださいって、その降りるってのが大変だから、なかなか行けない。送ってもらうにしても、いつも送ってもらわなきゃいけない。そういう機動力を、ぜひみんなのバスに発揮してほしいし、周辺部の弱点は、こういう公共交通ですね。そういうのが期待するところなんですけども、有料化にもなったしこう回るとかね、ぜひ武雄の、今言った病院とか向陽園とか、向陽園に関しては、例えばバスまでの接続でもいい、大型バスが入っていけないところまで迎えに行くのにぜひそういうのも考えてほしいですし、極端に言えばスクールバスにも使える。スクールバスってのは、今現在使ってないんですね、菅牟田地区では、今子どもは1人だったですよ。やっぱり1人だと歩いて行けない、そういう中で行かないといけないし、ずっと子どもたちが減ってる中、親が送り迎えしなきゃいけないとか、

そういう役目も出てくると思います。

ただつらつら、いろんな役目をしてほしいってのを、あまりにも多く言いすぎましたけども、やっぱり一番は町の方に出ていきたい。そういう中どういう方策があるのか、なかなか担当の人たちも既存の路線バス、既存の交通会社ってのもあるんで、使いにくい。使いにくいってというか、なかなかできない。でも要望は物すごくある。町の中に行きたい、図書館にこれで行きたい。老若男女、図書館に行きたい。やっぱりこれだけ話題になれば、行きたいですよ。でもなかなか手段がない。もちろん送っていくことはできます。この中でどうやってこれをするか。まずその、そういう方策がないかってのが1つ。

で、2つ目が、もしいろんな方策がなければ民間と手を組んでやれないか。民間と手を組むとは、例えばタクシー会社もそうでしょ。運送会社さんもいろいろいらっしゃるかもしれませんが、武雄自動車学校さんもいるかもしれない。武雄自動車学校さんは抜群なんですね。というのは、生徒を迎えにいつも回られている、大きいバス。そのとき使わせていただいて、例えば、そういうふうに使わせていただければ、地区からも行政側からしたら一挙両得なんですね。ね、社長。これはねいろんな面で、産官学という言葉をよく皆さんがたよく使われていますけれど、知恵を出し、民間がし、行政もちょっと今までよりも負担が少なくできれば三者合意してやれば物すごくいいんですよ。さっき言った、武雄までっていうのも、それで解決するわけですね、社長。そういうふうに、これまだ打ち合わせなんてやってません、やってませんけども、いろんな方策が考えられると思います。

役所に求めたいのは、そういうふうな法律がどのようなところが抵触するのかっていうのを、きちんとこう——例えば道路交通法でここところは抵触するかもしれないから、こういうふうにすれば、民間の方でもいいですよとか、そういうのを教えていただきたい。ぜひこの2点を質問したいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

確かにですね、質問者も御指摘されるように若木町につきましてはですね、全体的に1便辺りの乗降客数が少ないということで、これまでもいろんな方策を検討してきております。乗り継ぎ無料とかですね、そういう中でいろいろ工夫はしてきてるわけですが、北方方面に行くというのは1つのアイデアではないかと思っております。

武雄に真っ直ぐ来るということになりますと、民間のバス事業者が走らせている路線と競合するということになりますので、これは制度的にかなり厳しいというのがありますので、民間のバス事業者が通っていないコースを選んでいく、というようなところは、1つのアイデアではないかというふうに思っていますので、そういう場合のニーズですね、こういうものを調査しながら進めていきたいというふうに思っています。

2点目の、民間のさまざまな事業者の方との連携ということについては、御指摘の制度的な調査とか、こういうことをしながら、進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、ここは答弁調整がうまくできていなかったんですけども、ちょっと、それだと若木の人たちかわいそうなんですよね。有償のところは走っていたらね、そこは制度上でできないです、そんな制度ないと思いますけどね。ただそれは、民業圧迫という観点ありますよ、民業圧迫という観点があって、そこでね、例えば今、昭和バスさんでしたっけ、今走っていただいているのは。そこの調整はいるとは思いますが、多分制度で走らせてはいけない、というのはないと思うんですよね。路線だって、いろんなところに行くと、いろんな民間会社のバスが走らせているじゃないですか。だからそれはないと思うんですけどね。そこはちょっと私も入って調整をしたいと思います。もしあったら、きちんと私からお詫び申し上げたいと思います。ですので、民間会社の利便性よりもね、私は地域に住んでいる方の利便性を第一に考えるべきだと思っていますので、そういう観点でこの調整に入っていきたいというふうに思っています。

アンケートは確かになかったんですよ。そういう要望もなかったんで、だけど声なき声に耳を澄ませることはすごい大事なことなんです。

もう1つ大事なのは、できることからまずやると。全面的に変えるっていうのは、なかなかこれエネルギーがいりますので、そうじゃなくて例えば、試験的にまず走らせてみよう、と。そこで、徐々に評判がよかったら、そこは切り替えていくと。どうしても民間業者との競争があるんだしたら、そこだけはちょっと申しわけないが料金体系を変えてもいいような気がするんですよ。タクシーとバスって全然違うじゃないですか、それは利便性が高ければ高いほど値段が高くなるのっていうのはありえる話なんでね、そういうふうに柔軟に対応していく必要があるだろうと。

僕は、若木町を回っていて、走りますからね、ショックだったのは、みんなのバスが人を乗せてなくて、空気を運んでいたと。これはね、あまりにも、あまりですので、ぜひ若木町の皆さんたちも、乗ろうというようなコース設定が必要だと認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長が調整、間に入りたいと思います、ということで、ぜひですね武雄まで、つてのは、前から要望いっぱい出てますよね。そういうので調整をしていただきたい。

例えば仮の話、向陽園の大型バスが来るときに、その地区まで入っていけないなら「み

んなのバス」を使っただけでとか、いろんな方策で利便性を高めていっていただきたいと思います。

これは区役ですね。うちの町の区役です。この前の区役ですけども、2 kmの草刈り、2 kmの泥上げ。年々人間が減ってきてるのに1人の負担がどんどん増えてく。本当に人口減ってくのが大変です。これはですね、川内地区。きのうのぼってきました、水瓶ですけども、これだけしか湯水でない、いろんな面で周辺部は、国土、市の土地、いろんなところで保全でがんばっています。こういう土地を守って頑張っています。ぜひ、ですね、そういうふうな周辺部も住みやすい、いいぞ、というふうな、我々も地元も頑張りますし、行政もぜひそれのお手伝いをしていただきたいと思います。今市長がいろいろつらつら言っていただきましたので、その言葉だけでも助かってます。ぜひ、これからも周辺部のことを考えていただければと思っています。

以上で終わります。ありがとうございました。

[25 番「牟田議員、あれは日輪荘やろ。向陽園じゃないやろ。」]

[21 番「あ、これ日輪荘です、すみません。ありがとうございます。平野議員さん、いつもありがとうございます。」]

○議長（杉原豊喜君）

以上で、21 番牟田議員の質問を終了させていただきます。